

採卵鶏における制限給餌による収益性向上技術

中小家畜部

背景

- 配合飼料価格の高止まり
- 鶏卵は、MS及びMサイズ卵が高値で取引されているが、産卵後期はLサイズ以上の生産割合が増加

目的

- 制限給餌による飼料費の節減及びMS、Mサイズ卵の生産割合増加による収益性向上

研究内容

- 通常給餌(不断)と制限給餌の給餌方法の違いによる飼養、産卵成績を比較調査

【制限給餌方法】

- ・給与量は、日本飼養標準の代謝エネルギー要求量から算出
- ・33週齢から開始し、1週間ごとに給与量を設定

成果の内容・特徴

制限給餌による卵重増加の抑制により、平均均卵重、産卵日量は減少したが、
○飼料摂取量も減少したため飼料要求率向上

→ **飼料費節減**

○MS及びMサイズ卵の生産割合増加、単価上昇

→ **鶏卵販売額同等**



収益性の向上

(鶏卵販売額 - 飼料費)



留意点

【制限給餌実施にあたり】

- 採卵鶏の体重低下に留意した給与量を設定
- 配合飼料価格、鶏卵価格の動向により実施の有無を検討